小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 41

2022 年 3 月 5 日（火）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL: 042－346－5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1－830

「西ネット」とともに

10 年の節目を迎えて

瀧口　優（保育科）

2011 年 3 月 11 日の東日本大震災を経験して、人のつながりがいかに重要であるかを日本中が経験しました。白梅学園大学・白梅学園短期大学において「地域ネットワークづくり」の研究を進めていた私たちは、人と人のつながりが人間への信頼をうみだし、困難な時こそその力が発揮されるという知見を得てきました。それを背景として、大学周辺の地域ネットワークづくりをすすめようと地域に呼びかけ、様々な分野の方々の参加を得て「小平西地区地域ネットワーク」（以下「西ネット」）を 2012 年 3 月に結成しました。

府中街道から西側の地域を範囲に 4 つのブロックに分け、それぞれのブロックにおいて地域づくりを進めました。第一ブロックは小川西町及び栄町、第二ブロックは上水新町 1 丁目と中島町から小川 1 丁目（400 番地まで）、第三ブロックは上水新町2丁目と小川町 1 丁目（900番地まで）、第四ブロックは上水新町3丁目、上水本町 1 丁目、津田町 1 丁目、たかの台、小川町 1 丁目 900 番以降）として、それぞれに地域世話人会を組織しました。

以後、全体の懇談会は 3 か月に 1 回、地域世話人会は 2 か月に 1 回、ブロック世話人会はほぼ 1 ヵ月に 1 回開催し、情報紙「小平西のきずな」は 3 か月ごとの発行で、40 号を越えました。

それぞれのブロックは独自の組織をすすめ、第二ブロックでは「西の風」、第三ブロックではコミュニティサロン「きよか」、第四ブロックではコミュニティサロン「さつき」に結実しています。残念ながらコロナ禍と家主の都合でサロンは休みの状態となっています。

さらに西ネットの中に中学生無料勉強会として地域の中学生を対象に勉強会を組織しました。これも 8 年目を迎えています。

10 年目の節目をむかえて、次の 10 年に向けて新たな取り組みを考えなければなりません。この 10 年で地域というものが見えてきました。まだまだ組織するというところまでたどり着いていませんが、一歩ずつ歩みを進めたいと思います。

個人的なことですが、この 10 年目をむかえて白梅学園短期大学を定年退職することになりました。四月からは一住民として西ネットの活動に参加させていただきます。

小平西地区ネットワークって何？

2012 年 3 月 17 日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランテイア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

小平西地区地域ネットワーク 10 周年に寄せて

代表のことば ： 草野篤子（白梅学園大学名誉教授）

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震及びこれに伴う福島第一原子力発電所事故災害は、白梅学園大学及びその周辺の災害対応について、深く考えさせられるものがあった。東日本地域は、昔から農漁村部が多く、かつては三世代家族が大勢を占め、地域社会での人間関係もかなり密に維持されており、日常の中での人と人の繋がりが大きな力を発揮していることが伝えられていた。それにもかかわらず、大災害のもたらす威力はそれを圧倒し、かつてない大きな問題をもたらした。

ここ、白梅学園がある東京都小平市は、昔からの農村部へ新たに多くのサラリーマン層がマイホームを求めて形成された町で、旧住民と、新住民が混在しているところである。白梅学園大学・白梅学園短期大学では、2005 年から「地域ネットワーク作り」研究会を立ち上げ、内閣府の「ソーシャル・キャピタル－豊かな人間関係と市民活動の好循環を求めて」（内閣府国民生活局市民活動促進課 2002）などについて研究・討議し、この調査票を使って、小平市の小学生の父母に協力を仰ぎソーシャル・キャピタルの調査を行っていた。

その結果は、内閣府調査と同様、人は、知り合いの数が多ければ多いほど、人に対する信頼感が高くなり、少なければ、信頼感を持ちにくいという内容であった。

このような中で、地域ネットワーク作りのメンバーを中心に、どのような地域ネットワークを組織するのか準備委員会を結成して、1 年後、2012 年 3 月「小平西地区地域ネットワーク」（以下西ネット）を立ち上げた。小平市西地域の自治会、町内会、高齢クラブ、老人会、民生・児童委員、NPO の代表など、また個人的な知り合いなどに、くまなく連絡を入れ、ボランティア団体、大学・学校、市役所などに関係する人々が「お互いの顔が見える助け合う地域つくり」を目指すこととした。大学内では、とりわけ家族・地域支援学科の世代間交流、地域福祉、介護、社会福祉等を専門とする教員が参加して 2012 年 3 月 17 日に地域創りへの期待に胸を膨らませ、結成にこぎつけた。

西ネット設立の呼びかけに応えて参加してくださった地域の人々は、民生・児童委員をはじめとして、真剣に高齢者、子育て中の母親、障碍者、引きこもりの青年など、自分たちの地域のつながりをどうしたら良いか考えていた方々で、白梅学園大学が声をかけたことによって西ネットが形になったと、いうわけである。地域世話人は、現・元民生委員などが、引き受けてくださった。

大学を中心とした地域づくりは、世界的にみると、米国ペンシルヴァニア州テンプル大学「世代間学習センター」(Center for Intergenerational Learning)同じく米国ピッツバーグ大学の「諸世代と共に」（Generations Together）など、またドイツ、スペインなどヨーロッパ諸国などに多く見られるが、ここ東京では、東京都港区が早くから、地元の慶応義塾大学の教員、大学院生、学部生、三田商店街などと展開する新しい地域づくりがある。この「芝の家」は、子どもから高齢者まで安心して暮らすことができる地域づくりをめざし、昭和 30 年代にあったような、あたたかい人と人のつながり・支えあいを再生することを目的とした、慶應義塾大学と港区芝地区総合支所が協働で運営する、芝地区地域事業「地域をつなぐ！交流の場づくりプロジェクト」の拠点と言われ、区の財政支援によって運営されている（港区ホーム頁）。

「小平西地区地域ネットワーク」は、この 3 月 17 日で 10 年を迎える。4 つのブロックに分かれた各ブロックのうち、3 つのブロックは、地域の居場所としてのコミュニティ・サロンを運営しているが、場所の問題に苦悩している。また、公民館の協力を得て、中学生の無料勉強会「分った会」は、毎年、中学生の高校進学にむけて、強力な追い風の手を差し伸べている。

設立 20 周年目に向けての今後 10 年間は、是非とも、単なる自助、互助、共助だけでなく、国の政策、東京都、小平市などの行政などから強力な公助をも得て、「小平西地区地域ネットワーク」が、跳躍の 10 年を迎えることができることを、切に願っている。

10 周年記念に寄せて

～暮らしや地域へのまなざしの回帰と好循環を～

白梅学園大学・短期大学　学長　髙田文子

いわゆる「西ネット」という名称が学内でも定着したのもそのはず、10 周年を迎えると伺い、これまでの道筋に関わってくださったすべての方々とともに喜び合い、めぐり逢いに感謝申し上げたいと思います。東日本大震災を意識的誘因として、「いざというとき、行政側にも限界があること」（当時小平市役所地域文化課長斎藤武史氏）を自覚せざるを得ないなかで、人間関係の希薄化が指摘されて久しい時代に、地域における人間関係づくりという手間暇のかかる活動が持続したことは何より喜ばしく誇らしいことです。「顔の見える地域づくり」を進めるために、声をかけて懇談会を重ね、情報誌を発行する、コミュニティサロンやコミュニティカフェを開催して信頼関係を築く、いずれも一朝一夕にはできないことですし、ボトムアップでなければ息づかない活動です。

「小平西のきずな」のニュースを No.1 から読み返しながら、地域というものの織り成す多様性を感じると同時に、参画された方の層の広がりを実感しました。No.40 では、これまでの活動報告を振り返った文章（白梅瀧口）があり、手探りでボランタリーに展開してきた軌跡へ自負と同時に、これだけ取り組んできても関わっているのは地域の一部であることへのもどかしさとが読み取れます。

知の拠点である大学と、生活の拠点である地域が融合することは、今後全国的にますます重視されていくでしょう。例えば、研究者と一般の市民によって行われる科学的活動として、シチズンサイエンスという領域があり、世界的な広がりをみせています。多岐にわたるアカデミックな学問分野の指導のもとで社会課題に取り組むことで、研究者だけでは得られなかった知見を得ることをめざすという双方向性が特徴です。

また、企業も社員の暮らしにまなざしを向けるところが出てきました。パナソニックの楠見社長は、2022 年 1 月 6 日の東京都モニタリング会議で、社員が希望すれば週に 3 日休める「選択的週休 3 日制」の導入を目指すとし、増やした分の休日は副業や自己学習、地域ボランティアなどの社外活動の時間に充ててもらうことを想定していると表明しました。例えばこのように、コロナ禍を契機としたパラダイムシフトの最中にあって、企業も含めてさまざまな組織がニューノーマルのあり方を模索するなかで、暮らしや地域へのまなざしの回帰が特徴づけられます。硬直的な働き方の見直しは、これまでの地域ネットワークの構成員に新たな世代やアイデアを呼び込み、個々人の発想や気分の転換に還元されていくことも期待できるかもしれません。

最後に、今後にむけてのエールをこめて 3 点にまとめます。

1 点目は、地域のウェルビーイングと持続可能性です。人は誰でもよりよく生きたいと願い、幸せを求めます。それを地域全体に広げ、人間関係を最大の資源として、地域をより魅力的に発展させたいという意識を共有すること。ウェルビーイングの方向にベクトルを向ける取り組みを、いかに息長く続けていくかを含めて、さらに知恵を合わせて工夫し続けていくことです。

2 点目は、当事者意識の伝播です。いかに我がことと捉える意識を広げていくか。それぞれが、知的貢献、時間貢献、感情貢献、スキル貢献など、自分にできるもので参画し、そこに新たな気づきや学びが生まれていきます。

3 点目は、相互利益の好循環です。「やらなければならないこと」が理性を超えて負担にならないようにするためには、遊び心や楽しさ、やりがいによる充足感が基本です。同時に、負担感と充足感の均衡が極端にくずれないように、双方向性が確保されているかについて、ニュートラルな視点からの活動の総括が必要です。

優しさや温かさは、人の心を柔らかくします。「信頼」、「規範」、「ネットワーク」をキー概念とするソーシャル・キャピタルが豊かになることで、西地区がさらに魅力的になるように、大学としても取り組んでまいります。

10 周年を迎えて西ネットに期待する

白梅学園理事長　井原徹

小平西地区地域ネットワーク（以下「西ネット」）が、2022年3月で創設10周年を迎えるとのこと、心からお祝い申し上げます。そして、今後も末永く活動を展開してくれることをご期待申し上げます。 学校法人白梅学園は同年同月に創立80周年を迎えますが、短期大学は65歳、大学が15歳になります。そもそも大学・短期大学の使命は「教育」「研究」「社会貢献（地域貢献）」です。にもかかわらず、社会貢献・地域貢献を具体的に展開している高等教育機関はそんなに多くありません。あっても多くが地域活性化のための「イベント」です。

白梅学園大学・白梅学園短期大学は「保育」「子ども学」を主な学問領域とする高等教育機関です。私はまだ就任3年ですが、こうした学問分野を土台にして地域と連携しながら、ネットワークづくりを実践している姿に、誇りを感じています。「小平学・まちづくり研究のフロンティア」という冊子で本学園短期大学瀧口教授は西ネット創立のいきさつを次のように述べています。「東日本大震災（注：2011.3.11）が猛威をふるい、東北地方を中心として大きな被害を受けた。毎日の映像の中で、それでも地域によっては強い絆を通して助け合う姿が報じられ、いかに日々のつながりを作っていくのかが課題として浮上し、その年の秋から具体的にネットワークづくりがスタートした。」

そして、瀧口教授は「『西ネット』としては創立当初から『人と人とがつながる』ことを目標にしてきた」とも述べています。困っている人、苦難に遭遇している人がいても、見て見ぬふりをするケースが多くなってきたように感じるこの社会において、「共助」の精神をどのように育てていくかは、大きな課題であると思います。自助ではどうしようもない時に助け合いの手を差し伸べてもらえたら、どんなに有難いことか。皆さんもそうした経験を少なからず持っていると思います。

いざというときにお互いに励まし助け合う環境を作るためには、普段からの「人と人のつながり」を大切にし、人的ネットワークを構築しておかなければなりません。

宗教的つながりでもなく、政治的つながりでもない「生きる人が穏やかで充実した人生を送るために、隣人や地域とネットワークをつくる」ということがいかに大切かを、75歳になったいま、痛切に感じています。地球規模の課題、我が国の課題に向き合うことも大切なことですが、人が安んじて生きるためには、先ず地域での身近な人との相互理解、相互の助け合い（互助）が無くてならず、それが原点だろうと思います。

昭和21年生まれの私ですが、子供のころの経験を思い出しています。まだ各家庭にお風呂がなく、あっても毎日は沸かすことをはばかる時代、隣の家にお風呂をもらいに行きました。お菓子やおにぎりを一杯持っている子は、持っていない子に分けてあげました。そんな「ほんわり」とした時代でした。また、「悪餓鬼」だった私は、隣の村の大人に思い切り叱られたこともありました。

今の社会では薄れてしまったか、あるいは避ける風潮にある「人と人とのつながり」を、何とか復活させなければならない、そんな思いが強く湧き上がってきます。 西ネットの活動が、そんな「ほんわり」とした地域社会を再現してくれることを、心から期待しています。そして、本学園がその活動にますます大きく貢献していくことができるよう、頑張っていきたいと思います。

小平西地区地域ネットワーク 10 周年記念誌に寄せて

小平市　地域振興部市民協働・男女参画推進課長　松尾 英条

このたび、小平西地区地域ネットワークが 10周年を迎えられたことに、心より慶びを申し上げます。10周年記念誌の発刊に際し一言お祝いを申し述べさせていただきたく存じます。小平西地区地域ネットワークの皆様

には、平素から小平市の市政及び市民活動の推進に格別のご支援とご協力を頂き、厚く御礼申し上げます。小平西地区には、南側に玉川上水が悠然と流れ整然と住宅が建ち並ぶ中、高校や大学等が集まり、緑豊かな公園と自然が共存している歴史と文化が奏でる魅力あふれる地域です。また、白梅学園大学・白梅学園短期大学が中心となり、保育や福祉分野をはじめとする各種団体と連携して市民活動が活発に行われています。こうした環境の中、小平西地区地域ネットワークは、2012年3月に発足され、これまで、顔の見える地域づくりと地域住民と心の通ったコミュニケーションを図り、地域課題を解決しながら誰もが住みよいまちづくりをすすめてこられました。これまでの取組に、改めて敬意を表しますと共に深く感謝申し上げます。

『小平西地区地域ネットワーク』設立10周年に寄せて

小川公民館館長　船津　和清

『小平西地区地域ネットワーク』、設立 10 周年おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

2011 年3月に東日本大震災が起こり、身近な地域の人と人との結びつきが、いかに大切かが指摘されました。また、いざという時に行政側にも限界があることが明らかになりました。

それから、約1年後の 2012 年3月 17 日に、白梅学園大学の関係者の方が中心となり小平市西地域の様々な民間団体、学校、民生委員グループ、町内会、行政側代表などが連携協力し、『小平西地区地域ネットワーク』は発足されました。

現在、「お互いの顔が見える地域つくり」、「生活している地域の絆つくり」を大きな目的に掲げ、個々の団体のイベント、お祭り、防災訓練など、様々な活動の交流が

小平市におきましても少子化による人口減少、急速な高齢化、グローバル化など大きな変革の中にあり、地域社会においても、地域の伝統行事等の担い手の減少、人と人とのつながりの希薄化など、様々な課題に直面しており、大学、市民活動団体、行政や地域社会等の既存組織の役割が大きく変化してまいりました。

これからも私たちが、住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために、或いは、後世にとっても希望のもてる持続可能な社会を実現するためには、多様な地域課題解決のために新たな手法、新たな担い手やつながりおこなわれています。

小川公民館は、①人と人がつどう機会をつくること、②多様な学びの機会をつくること、③つどい、学ぶなかで人と人が様々な「つながり」を持ち、新たな価値を生み出せるようコーディネートすること、という考えのもと、様々な団体の方との話し合いを大切にし、防犯、防災、小中学生の学習支援、高齢者の見守りなどの地域課題を、地域ベースで推し進めていけるようなネットワークづくりに今後も全面的に協力し、地域の豊かな人間関係を築き、住みやすい地域を共につくっていきたいと考えています。

結びに『小川西地区地域ネットワーク』がモデル地区として今後も益々発展され、地域社会に貢献されることを願っています。

や価値の創造が求められています。人と人がつながり、団体と団体が連動して面となり、面と面が重なり合い新しい時代ならではの発想や新たな実践を生み出すことが望まれています。今後も、皆様の活動を通じて、「面と面のつながり、地域の輪」がさらに広がっていくことを期待しています。

結びに、ますますのご発展、並びに地域の皆様のご健勝とご多幸を祈念してお祝いの言葉とさせていただきます。

家族・地域支援セミナー2021

子ども・若者フードサポート Community Meeting

オンライン公開講座が開催されました。

白梅学園大学・白梅学園短期大学 子ども学研究所による家族・地域支援セミナー2021 では、2021 年 12 月 18 日に、小平市内の子ども・若者の食に関する支援活動への理解を深め、活性化を計るために公開講座を開催しました。講座はコロナ禍の状況を鑑みウェビナー形

式とし、①厚生労働省医務局総務課長である熊木正人さんによる講演と ②現在市内で食料支援に携わっている方々によるコミュティミーティングの 2 段構成で実施されました。

①熊木正人さんによる講演では、『地域共生社会の実現に向けて』というテーマで、生活困窮者を支援する制度の成り立ちや、子ども の貧困の現状などをわかりやすくご教授いただきました。

②Community Meeting では、全国子ども食堂支援センター・むすびえ代表の湯浅誠さんがコーディネーターを務め、小平市社会福祉協議会、市内子ども食堂、児童養護施設などの支援者・支援団体の方が活動内容を報告し合い、互いの持つ情報を共有する場となりそれぞれの支援事業が持つ強みや課題が明らかとなりました。

また、今回のオンライン講座には、子ども・若者への食料支援に関心のある学生や地域住民の方などおよそ 150 人が参加し、この Community Meeting によって繋がりが形成され、市内の支援を求める人々に漏れなく支援が行き届く体制作りへの第 1 歩になりました。以下は感想の一部です。

・専門職は忙しく、すべての家庭をじっくり見ることは難しい。食糧支援を通して、専門機関の窓口に来ることができない地域住民のニーズを知ることができると思った。

・授業で、一つの専門職だけでなく様々な機関で協力していくことが大切だと学んできたが、今回実際に様々な現場の方の話を聞いて、その言葉の重みをさらに理解できた。小平の様々な場所で生活を支える活動が行われているのだとわかりました。

・同世代の大学生が子どもの食堂を立ち上げたことに驚き、自分も大学生のうちに誰かのために動きたいと思いました。(Community Meeting の報告書より)

学内の世代間交流コミュニティカフェ

逆デイサービスプロジェクト共催企画

白梅学園大学　森山千賀子・午頭潤子

新型コロナ感染症の蔓延が少し落ちついていた 11 月～12 月に、学内で世代間交流コミュニティカフェ・逆デイサービスプロジェクトを共催企画しました。(11 月手形アート)

11 月 17 日(水)は午前中に開催し、地域にお住まいのシニアの方を中心に 9 名の方が参加され、学生とともに手形アートを行いました。(折り紙を用いたクリスマス・お正月飾り)

久しぶりに外出したという方もおり、参加者全員から「楽しかった！」のコメントを頂戴しました。

12 月は8日（水）の 13 時～世帯間交流演習の授業の時間に実施し、市内のデイサービスオリーブ鷹の台と上水新町 3 丁目との境の国分寺市に所在するグループホームなごみ国分寺北町のご利用者様が、5～6 名ずつ来訪され、折り紙を用いたクリスマス・お正月飾りなどに取り組まれました。学生たちの毎回の創意工夫に職員の方々から高い評価もいただきました。

今回は、人数を絞っての開催ではありましたが、シニアの方々の笑顔も見られ、あっという間にひとときが過ぎてゆきました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

第 40 回懇談会に参加して

権田倫子

今回の懇談会は 40 回と知り、10 年の時の流れを思い起こしております。足立さんから声をかけられ、近くに住みながら、ご縁のなかった大学で、地域の情報を耳にすることが出来ると、参加を楽しみにして参りました。コロナの為、大学構内での集まりは否となりましたが、滝口先生の御蔭で、オンラインでの開催となり、すごい時代になったなあと思いつつ、これからの社会は一体どちらの方向に向かっていくのかと、疑心暗鬼にも?オリンピック開催問題についても然り、混沌とした閉塞感を感じながら過ごしております。今回のテーマ「ヤングケアラー」について、以前大学の懇談会で、映画を見る機会がありました。其の時は主人公の青年?がお年寄りとの関わりをとうして、成長する姿の内容であったと記憶していましたが、今回、森山:日向氏のお話を伺い現状の厳しさを知る機会となりました。最近新聞で、ヤングケアラーに関する記事や投稿を目に致します。

大学の地域支援学科では、既に 5 へ 6 年前南魚沼市や藤沢市における調査を、小平市は 2017 年度市内の公立小中学校教師へのアンケート調査を行われた結果をお聞きしました。学校では家庭内の問題として見過ごされやすく、子ども自身も、周囲に知られたくないなど、誰にも相談できない状況が多々ある享を知りました。小平市ティーンズ相談室「ユツカ」が開設されたとの亨ですが、相識室迄行くのは、なかなか敷居の高い亨でしょう?スクールカンセラーとの連携が大切ですよね!!私の仕事は主に出産後のママや、乳幼児期のお子さん達が対象ですので、今まで気が付かないで、見過ごして来てしまいましたが、思春期の子ども達に関わる仲間への、情報提供も大切ですね。自分自身が過ごして来た昭和 30 年代を振り返ってみますと、父が早く病死した為、母は仕事、兄弟 5 人の末子の私の小学校時代は、近所の子どもの世話等当たり前、中学校からは、学校煽りに八百屋さんによって、買い物、夕食準備をする章は日常的な享でした。今振り返って考えますと、其の経験をとうして、生活力が身についたとも考えますが、60 数年前と現代の社会ではすっかり変わり、新自由主義による経済格差が、社会的弱者の中でも、特に物が言えないこどもに表れる享を、あらためて考える機会となりました。

子どもの権利条約が批准されていますが、具体的な動きはなかなか見えて来ません。先日の朝日新聞の「人」欄に母子手帳への子ども権利条約の記載を提案し、行政に働きかけている、女子中学生の享が掲載されていました。若い感性は素敵だなと思いつつ、行政の窓口は、母子手帳を交付、内容説明の時には、これから親になる人に伝える享も、大切な享ではないかと考えております

皆さん、コミュニティ・サロン（下の①～⑤）と「中学生勉強会」（④）に足を運んでみませんか？

お待ちしております！　（右の地図を参照）

①　ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜　10:00~16:00　（移転先検討中）

問合わせ：渡辺　穂積

TEL: 042―344－7412

②　ほっとスペースきよか

毎週月曜　11:30～15:30　（移転先検討中）

問合わせ：石川　貞子

TEL:090－7732－2089

③　アットホームはぎ

毎月 7, 17, 27 日：14:00～17:00

問合わせ：萩谷　洋子: 042-342-1738

④　「分かった会」小中無料学習教室

毎週木曜日　18:00～20:00　（小川公民館）

問合わせ：奈良　勝行　（講師募集中！）

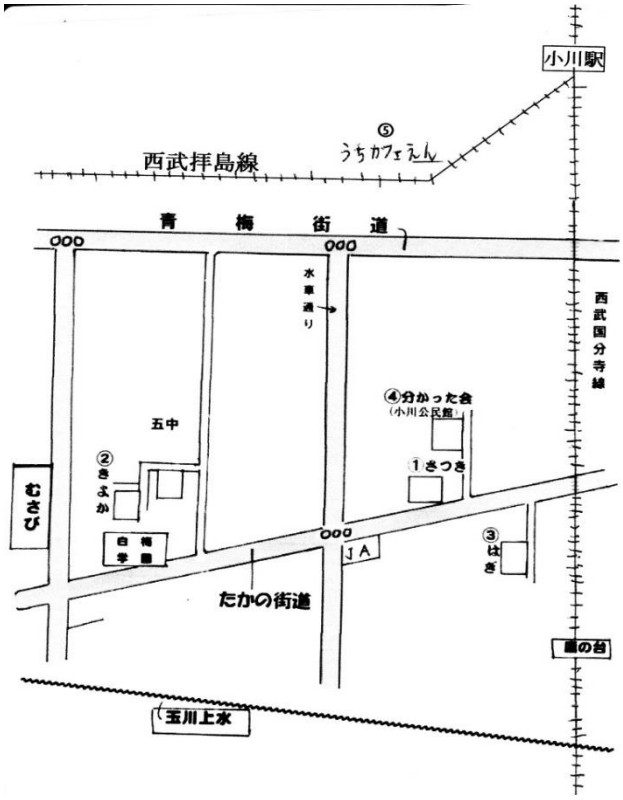
TEL:090-4435-4306

⑤　子育てサロン「うちカフェえん」（小川西町）

毎週月・水　13：00～15：30 分

問合わせ：伊藤絹代

TEL: 090－5441－6219



イベントの予定

（コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です）

西ネットの今後の予定

大学世話人会：　04 月 12 日（火）18 時～
地域世話人会:　05 月 10 日（火）18 時～
大学世話人会:　05 月 24 日（火）18 時～
地域懇談会　：　06 月 07 日（火）18 時～
大学世話人会:　06 月 21 日（火）18時～

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西　克彦・丸山安三	瀧口　優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野晶哲
4	桜田　誠・萩谷洋子 細江卓朗・渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い：この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体（者）の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集：このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください（奈良勝行）。

メール：ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記：「小平西のきずな」も今回で 41 号を迎えます。3 ヶ月に 1 号の発行なので、この 4 月から 11 年目に入ります。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています（瀧口）。